

点検及び評価に係る学識経験者の意見について

福山市教育委員会が実施した「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」について、教育に関し学識経験を有する者から、次のとおり意見を聴取した。

【学識経験者】

名 前	役職等
伊澤 幸洋	福山市立大学副学長
永久 洋子	社会教育委員
藤井 裕久	福山市PTA連合会会長

(五十音順)

【意見の要旨】

(点検及び評価全般に係る意見)

- ◇ 新型コロナウイルス感染拡大により、昨年度1年間がどのようなものであったかということを目に見える形で、検証していく必要がある。本報告書の最後に参考として掲載しており、これをもっと大事に扱って、検証・対応をどのように行ったのかを記録に残していく必要がある。

(就学前教育に係る主な意見)

- ◇ 保幼小連携の取組について、職員の交流や子どもが行き来するだけでは物足りない。研修会等を行うことも重要だが、小学校に上がったときに、スムーズに学びがスタートできるよう、中身を練っていく必要がある。
- ◇ 発達障がいの子どもについて、保幼小連携により、事前に把握、準備するなど、法人立も含め丁寧に対応する必要がある。
- ◇ 発達障がいについて、子どもが小さいとき、就学前から親に教えることによって、親が理解することが重要。こういう場合は、こういったアプローチをした方が良いなどの取組を保幼小連携の中でしっかり提示できるような形がとれたら、子どもたちのためにもなるし、発達障がいの全体の理解につながるのではないか。

(学校教育に係る主な意見)

- ◇ 新型コロナウイルス感染拡大により、約2か月休業となったが、学習の遅れをどのように対策して、どの程度とりもどせたのかを検証していく必要がある。
また、教職員の研修があまり出来なかった。フォローしていかないと後々の影響が懸念される。そういったところをきちんと記録・検討していく必要がある。
- ◇ 新型コロナウイルス感染拡大の影響等により、子どもたちが様々な面で困難な状況になっている。精密検査の受診率及び中学生の朝食の摂取率の低下、誠之奨学金の追加募集、教育相談センターの参加者の広がりが見られないなど、こういった困難な状況の中にいる子どもたちを拾い上げて、対策を取り続けていくことが必要である。

- ◇ 新型コロナウイルス感染拡大により学校行事がなくなる中、学校が独自で工夫して行った取組など、好事例を市全体の学校に周知する機会があれば良いと思う。
- ◇ 学校再編は、集団が大きくなり、適正な規模になるという良い面がある。再編しても、これまで地域と学校とで行ってきた取組がなくならなければ良いと思う。
- ◇ GIGA スクール構想により、学習用端末を持って、一人一人がそれに対応した力を身につけることは、これからの社会を考えたときには必要なことではあると思うが、体験的に学ぶとか、対話しながら学ぶといったことを、バランスよく組み合わせていくことについてこれから特に考えていく必要がある。現実の人間同士のやり取りや、体験をして、自分の体を動かして学ぶことの意義というのは、決してなくなるものではないと思う。
- ◇ 配付した学習用端末を活用できている学校と活用できていない学校があると思う。始まったばかりでなかなか難しいと思うが、良い活用事例を学校間で連携していくと良いと思う。
- ◇ ホームページに学校だより等がアップされているが、学校によっては古い情報が掲載されていることもある。学校の広報活動、発表、見てもらうということはすごく大事であり、ホームページ等を新しいものに更新していくことは、全体的にできた方が良いと思う。
- ◇ SNS モラルやライン等のトラブルが学校等でも起こっている状況がある。PTA でも会議や研修により、SNS モラルについて取り組んでいる。学校でトラブル事例等を共有して、生徒や児童に注意喚起をしてほしい。
- ◇ SDGs の視点を取り入れた取組が十分でないところがあるが、具体的な課題、環境的なこともだが、人や国の不平等をなくすことや住み続けられるまちづくりをすることも取り入れていかなければならないと思う。
- ◇ 12 ページの「一斉研修が役立っていると感じている教職員の割合」がかなり落ちている。また、「教育活動に意義ややりがいを感じている教職員の割合」が、中学校の 52.2%で、半分はやりがいを感じていないように見えてしまう。教職員もやりがいを持って、教育にあたってもらわないと、子どもたちもそれを感じてしまうことがあると思う。研修会が役に立っていないと思うのであれば、役立つ研修に変えて、内容を考えていくとか、教職員の働き方も改善して、やる気をしっかり出していく中で、子どもたちに良い影響を出していけるようにしてほしい。

(生涯学習・社会教育に係る主な意見)

- ◇ 図書館の来館者数が増えていないが、貸出冊数が順調に伸びている。工夫して、セットで貸し出したりしている点などについては評価できる。
- ◇ 公民館の来館者数が増えにくいことについて、やむを得ないところは多分にあると思う。次年度をにらんだ協議が必要である。
- ◇ 生涯学習センターでオンラインを活用した取組を始めているが、オンラインで楽しむことができる人と、直で五感を通して学びたいという人もいる。オンラインの活用も良いが、そういう要望もあるということも踏まえて取り組んでほしい。
- ◇ 公民館の講座等、いろいろ集まりがあるが、コロナ禍で活動できなかったということだが、今後オンライン講座等を進めていく場合、オンライン活用が可能であることを公民館が理解し、利用者に広く周知する必要があると思う。

(文化財に係る主な意見)

- ◇ 貴重な文化財を丁寧に掘り起こしている。順調に進んでいるようで、それは良いと思う。
- ◇ コロナ禍ということではあるが、これを機会に子どもたちが文化財に触れるような新たな活用方法ができれば良いと思う。それぞれの貴重な文化財を、ストーリーをつけて、郷土の歴史を立体的に子どもたちが学べるようになれば良い。
- ◇ 文化財保護の意識として、高齢者は高く、中・若年層の関心が低い。水野勝成入封 400 年の取組や福山城築城 400 年の取組はとても良いと思う。その取組が広がっていき、福山藩の歴史だけでなく、各地域の歴史をもっと知ろうという動きもある。そうした活動を尊重しながら、市の助成制度や応援するシステムがあれば、地域の歴史が若年層に広がると思う。
- ◇ 若年層に文化財を広めていくために、小学校や中学校のふるさと学習との連携など、資料の提供や授業の中で福山市の歴史や文化財を学ぶ機会をつくっていけば良いと思う。